

船本洲治——一九四五（昭和二〇）年一月二三日生れ。一九七五年六月二五日夜、沖縄の米軍嘉手納空軍基地第二ゲート前にて抗議のへん身自決。皇太子来沖阻止。朝鮮革命戦争に対する反革命出撃基地粉砕。

米帝の北朝鮮に対する核攻撃を断固阻止せよ。

彼が反対した鬼畜アメリカでも下層人民は斗っている。黒豹党にユー・イ・P・ニールトン同志は「詩」を書いた。（石田真津子訳）

家族をもたないことによつて 私は人類という家族をうけついで なにも所有しないことによつて 私はすべてを所有するようになつた ひどりの愛を拒むことによつて 私はすべての人びとの愛をうけいれた わが生命を革命に捧げることによつて 私はとしえの生命を見つけた

それは、革命的自殺

船本同志は、人民のために生き、人民のために死んだ。生きるために死んだのであり、斗いの中で倒れたのである。孤立して死んだのではなく、シラサカ者人民の中に永遠に生き続けているのである。

死んだ人々は、もはや二度とかえつてこないのだが、生き残った私たちは、いま何を考えるべきなのか。死んだ人々さえ、もはや黙つてはおられないのだが、生き残った私たちは、沈黙を守っているべきなのか。（ミヤン・タルシュー）